



第 5 号

編集兼発行人

朝日町役場内

九里道守

印刷所 高田印刷所

郷土の史蹟名勝を訪ねて

笹川の巻

旧泊町と宮崎村との境界を画する笹川の流域に笹川の聚落がある。

藩政時代の古文書を見ると古くは笹川(サ、カハ)の字を多く用いられたが後になって笹川の字も混用されるようになり、宝永以後笹川の文字を用いるようになった。

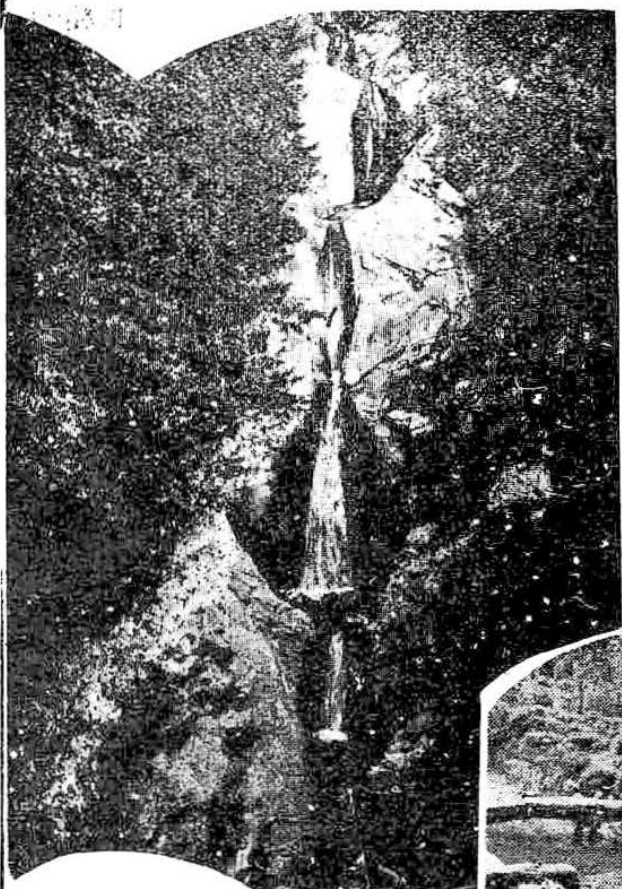
笹川は四田山を繞らし、笹川の溪流その中を流れ、至るところ、篠が

繁茂していたので、篠郷と称し、サ

川を笹川(笹川)

と称したそれが村名に何時しか変じていつたと伝えられて

「越後治乱期」に天正十二年、



豊臣秀吉、佐々成政退治の時、上杉景勝手合として越中へ発向、宮崎の城を攻む、(中略)敵も麓に下り篠川を隔て、

と云い、「三州志」の宮崎城の条に、西に篠川流ると云ふ。

斯様に村名にも川名にも篠、笹を混用していた。

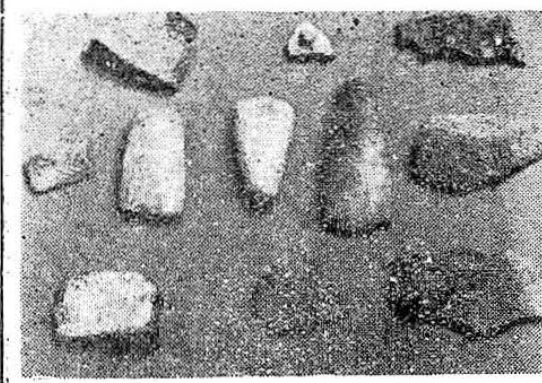
此の笹川が、古来よりの口碑に依れば、往時「亮」「佐衛門」の二人が始めてこの地に來て往居し、兩人土地の領有を定めた境界を仕切が谷と名づけた、と伝えている。

現在世帯数二二三、人口一、一三二人、小学校、公民館(六分館)農協、共同浴場(四)に一社、二寺があり、文化村笹川としてかつては生活改善優良部落として、県、県教委及び読売新聞社から表彰を受けた平和な桃源郷である。

さて口碑伝説に見る笹川の起源は至つて不明瞭ではあるが、笹川地内で発掘された出土品、石器、土器等の考證から直ちに村の起源と断ずる訳にはいかない。

縄文式土器、祝部式土器、石斧等の現われるところから先住民の住居を構えていたことは伺える。然し五輪塔、陽刻板五輪、陰刻板五輪等、その様式より室町時代を降らないと云うことだけはたしかなようである。

部落の南十丁、笹川をさかのぼつて行くと一瀑布に達する。七五の滝と云つて、滝は七瀬になつて、或は白布を晒らす



如く、或は玉と砕け花と散るよう

に、姿をかえてたがり落つる状は正に奇観、秋は紅葉を賞で、此の辺りに杖をひく者が跡を絶たない。

天正十三年、宮崎城主小塚某の開基にかゝる正覚寺はその由緒も古く自然の山形に池を配した庭園は、明治の中期、泊町の茶人殿村洗心の作と伝えられ、苔むした庭の風情は実に名状し難く、都を隔つ一山村に、茶人の設計構案になる名園は近時、文人 客の当寺を訪れるもの数多くその真価は世に認められるようになつた。七重の滝、七郎右衛門淵等に杖をひく者、又此の寺の庭に足を



写真説明

(上) 七重滝

(上下) 正覚寺の庭

(下右) 五輪塔

(下左) 縄文土器

泊の成人式

第八回泊地区成人式は一月十五日午後一時から朝日町役場議会議場で行われた。本年度の成人者数は一九六名で昨年度より七十名ほど多かったのは日東紡績、北陸化工に成人者が多かったことに依るものである。当日は十数年ぶりの大雪だといわれたが元氣な若人たちは定刻に一二〇名位参集した。式は大平教育長の式辞に始まり、金森朝日町長、小坂町議會議長代理、坂東教育委員長の祝辞、成人達の学校時代の恩師を代表して岡泊小学校長の激励の辞、朝日町連合青年団長の祝辞があつて、成年を代表して本村正忠君の青年らしい感激と深い反省にみちた答辞があつた。式後講演会にうつり富山大学文理学部長柴田万年博士は若き日の思い出と現代青年に対する希望について一時間以上わたる講演があつた。温情のあふれる博士の講演には満場の若人に深い感激の表情が見られた。講演後記念撮影をして式を終了したが感銘した男女青年五十名は柴田教授をかこみ茶菓にくつろいで午後五時まで座談会を続けた。なお当日は来賓として山崎副役、池原休協委員長、水野婦人会長、泊公民館運営委員の中野、芦崎、水野、魚津、梅沢、の諸氏が見えた。泊公民館から記念品として福光焼湯呑が贈られた。

げ、笹川の名勝の一つとして、知る人ぞ知る名園である。

一月十五日の「成人の日」に朝日町全管下の成人式がそれと各地区的の公民館主催のもとに盛大に挙行された。合計五一八名の成人者の青年男女諸君を祝福し激励した。(境地域は二月正月のため式はまだ挙げられない)

成人者諸君は勿論成人に達せられない今日迄も国家社会の重要な構成員としての役割を演じ、荷つて来られたのであるが、満二十才になり、いわゆるおとなになると法律の上では一人前の人格ある人間として扱わ

「成人の日」 に 当 り 成人者 諸君 に 期待するもの

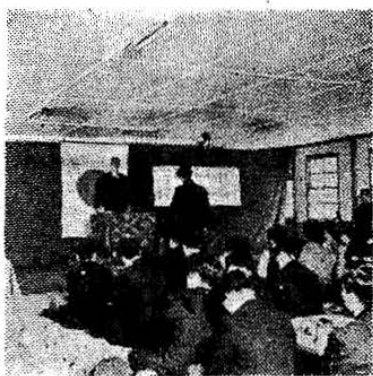
れる訳で、此の点からして人生に於ける一大画期的段階としての成人式を意識しなければならぬ。自分のおこなうことに対して正しい判断を持ち、そのおこなったことに対してみずから責任をとるだけの能力をそなえた人間として行動しなければならぬことになる訳である。

諸君の成長、達したことを郷党、国家、社会が心から祝福すると同時に、又これからの諸君の社会人としての活躍に期待するものはそれだけに強く且大である、幸いに自重自愛されんことを。
左に關係各位の祝辞を掲載して祝意を表する。

激励の辞

町長 金森 吟

昭和三十一年の新春を迎え第八回目の成人の日になり、満二十才に達せられた成年男女諸君と一堂に会することを得ましたことは私の最も欣快とする処であります
惟うに、我々人生にとりまして満二十才に達したと云うことは、唯単に心身の発達を来したと云うことのみではないのであります。未成年者



写真は泊の成人式

祝 辞

朝日連青团長

諸君のおとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝う成人の日になり、朝日町連合青年団を代表し、心からお祝の言葉を述べます。

終戦後の民主主義教育で、合理精神が若い人の心をほぐし、封建制の暗黒は次第にぬぐい去られたりと云えども戦後十年未だに多くの問題を重荷に背負う現社会情勢において、諸君は戦乱の十年間に生き、戦後の十年間に育つて年少の身ながら、全く混乱と受難の中にきびしい訓練と苦悩を体験されたのであります。

が成年に達したと云うことは両親や兄弟の庇護を受けなくとも独立歩の域に達したと考えるべきであります。尚又、国民として参政権が附与され、民法上或は刑法上成年者として独立の人格を認められたのであります。

今や我が国の議会政治は高度の大政党時代の実現を見るに至つたのであります。此の健全な発展は実に我々の完全な選挙権の行使によつて達せられるのであります。

法律上独立の人格を認められると云うことは、諸君の第一動に各自一人一人が責任を持つと云うことであります。

「一國の隆頌の如何を卜するには其の青年男女を觀よ」と言はれて居ります。換言すれば國を造り町を造る原動力が青年の双肩にかゝつてゐると云うのであります。

然し、その全年月の期間にも屈せずしかも若竹の芽生えの如く強く生き抜き今日の成人の日を迎えられましたことは、私共青年団員として、ひとしをその意を体得し諸君と共に喜びにたえない次第であります。

私権の享有は出生に始まり、満二十歳を以て成年となり諸君も選挙権を有する等、課せられる責任と義務権利も大きく、自分自身の人格の尊厳を自覚されあわせて他人の人格をも尊重し立派な社会の一員としてはげしい若さをみながら、政治上経済上の諸問題をのりこえて町づくり国づくりに精進されることをお祈りします。

昭和三十一年は希望に輝く年であり、その希望を達成せしむべき年となし度いものであります。日ソ交渉が再開されんとしているのであります。國連加入を期すべきであります。日韓國交調整、アジア諸國との賠償問題等外交上のみならず、内、議会政治の運営、経済自立態勢の確立等多事多端であります。

我が朝日町亦町村合併の趣意を再認識し二万五千の町民一致協力、小異を捨て、大同につき、諸般の施策を達成し、以て町勢の飛躍的伸張を期すべきであります。

國造り町づくりの原動力たらんとする成人者諸君、諸君は愈々諸般の情勢を深く認識されまして、益々健康な身体を鍛練され、良識ある教養を積むよう励まれんことを切望致しまして成年者としての門出を祝福する次第であります。



団長 西島友行

団活動を通じ共にげんあいたいと思ひます。
諸君の健康をお祈りし、祝辞とします。

役場の電話番号
朝日局 四四〇番 執務中
交換台に於て各課切換
執務時間外
四四〇番 代表。(宿直室)
四四二番 總務課一二階
四四三番 教育委員会又は公民館
四四三番 収入役室一階下

基本選挙人名簿

昭和三十年九月十五日現在調製基本選挙人名簿の確定人員は次のとおりであります

投票区名	男	女	計
大家庄	七九〇	八四六	一、六三六
山崎第一	一三九	一四二	二八一
第二	五五五	六〇五	一、一七〇
第三	一六一	一九七	三三八
南保第一	四三五	五一〇	九四五
第二	二七五	二八四	五五九
五箇庄	六五一	七五一	一、四〇二
泊二	三八二	四七一	八二九
宮崎第一	一三二	二六八	四〇〇
第二	三三七	二九七	六三四
境第一	四〇九	四六八	八七七
第二	八五	九六	一八一
合計	6,773	7,630	14,403

町政日誌

昨年に比して男では二一八人の増となり女では反対に六一人の減となつた。

- 一日 新年祝賀名刺交換会(於泊高等学校講堂)
- 四日 役場御用始め
- 六日 消防出初め式並びに優良団員表彰式
- 七日 宮崎自然博物館竣工検査
- 十日 町議会文庫委員会、警察審査員候補者選定のくじ
- 十二日 町議会建設委員会
- 十四日 町財政に関する打合せ
- 十五日 選挙管理委員会、成人式

昭和三十一年度

各校下団新役員編成

連青機構の運営制度改正後、初の各校下団の役員改選が、山崎校下団を、トップにそれ／＼行なわれ、昭和三十一年度青年団活動の育成に邁進することになった。これにより、二月下旬開催される連青總會で連青役員改選後、名実共に若い世代の、いぶきに向つて進むことになった。各校下の新役員次の通り

山崎校下団

團長 久我口政則
副團長 安達 武夫
總務委員長 水野 信夫
文教 山崎 清
体育 車田 良雄
座長 森岡 元就
家以 末 定

大家丘校下団
團長 山崎 清馬
副團長 藤田 安正
總務委員長 長門 一郎
文教 石橋 三郎
体育 藤田 良平
座長 坂口 正
家以 末 定

朝日町連青

團長 折谷 俊彦
副團長 長井 智則
總務委員長 小林 祥三
文教 折谷 俊彦
体育 長井 智則
座長 長井 智則
家以 長井 智則
副團長 折谷 俊彦
總務委員長 小林 祥三

文化 折谷 俊彦
文教 折谷 俊彦
體育 長井 智則
座長 長井 智則
家以 長井 智則
副團長 折谷 俊彦
總務委員長 小林 祥三

副團長 廣田 信子
團長 近藤 俊
副團長 土井 和雄
總務委員長 松原 隆一
文教 大森 隆一
體育 谷口 美和子
文化 道用 竹用
大森 隆一
土井 和夫
谷口 美和子
大森 隆一
松原 隆一

二月 中旬
朝日町議場

朝日町連青定例總會

役員 改選
産業 振興 大会
組織 研究 特別委員

各校下団旧正月に改選

去る一月十四日、宮崎小学校に臨時總會を招集、次年度、活動方針及び役員改選をはかつたところ、新役員選定が困難なため、遂に解散を決議した、前年度、連青と歩調を合せ、活発に活動していただけに、各方面から借しまれて、再び青年活動の場に姿を現さんことを、望まれている。尚、各校下団の新役員改選は、旧正月行われる予定

家庭 江淵 五月
産業 長谷 利夫
會計監事 谷口 敏
泊校下団 團長 山本 浩一
副團長 中陣 保一
事務局長 大和 礼二
野中校下団 團長 堀川 勇二
副團長 道下 久義
評議員 川瀬 夏江
村上 彰
中島 精市
西島 順子

五ヶ庄校下の優良青年団員表彰

朝日町連合青年団及び、朝日町教育委員会、五ヶ庄校下青年団では成人の日、次の三君を、優良青年団員として表彰した。
後輩指導に盡力した。
月山分団 水野 敏夫
草野分団 廣田 和夫
強力な団活動の推進
桜町分団 田中 石男

新有権者となつて

近藤 朝子

今年一月十五日の成人の日を期して新有権者より選挙に對する自覺の感想文を募集して得た中の一篇を次に掲げて有権者の参考にした。
(朝日町選挙管理委員会)

生を得て二十年「私もどう／＼成人になつたのだわ」と今更に思われる、まずと先のことを思つて、有権者の一人に数えられたのである、「新有権者」と殊更に呼ばれてもびんとこない、それに対して哀愁の感はない、まさか選挙権を得て数人もなろうが、冬が過ぎ春が来て夏を迎える、そのように淡々とした気持ちである。これでいざ選挙という時になつて「試験を受ける学生」の様に胸がすくことであらうと思ふと苦笑がわく、何かひねくれた云い方みたいだが、これが私の偽らない心境といえる。今迄、唯面白半分に眺め、聞き、していた選挙も、候補者の街頭演説も、これからはその様に軽い気ではいられまい。何時の選挙でもそうだが、地方にはまだ根強い封建性がはびこつていて、何でも云うか、少しでも義理ある人から「〇〇さんに頼む」と一言云われれば、その人格等は問題でなく「あの人の頼まれたのだから」と、依怙地な程に固く心に極めてしまう。殊に中年以上の婦人に多く見られることだが、女性が選挙権を与えられてからもう十年も経っているのに自分から進んで人物を選ぼうとはせず、とかく他人からの指図を待つて、何時だつたか「〇〇さんに入れにやならんね」と、話していた人に、生意気にもやりこめてやろうと口出したことがある、
「〇〇さんでそんなに立派な人なの？」
「そんなこと告知らんぞ、近所の人じやからよ」
「近いとこの人に入れんにや」と口々に云つた。
「そうね、私達農民の為に力を盡くして下さる人なら誰だつていゝねえ」と云えば、
「何にやあの人、百姓の為にならん人じや、私欲の強い人じやもん」と、またたくあきれた話である、あのときは責任のない私であつたからあのようなことも云え、あのようなことを唯憤慨の気持ちだけでいたのである、
「今、私も有権者の一人になつたのだ」と考へるとき、公明であるべき選挙の矛盾が他人事にあらずと
ラジオ等でもよく耳にする、地方にはボスの名が居て、誰それと名指した人に票を入れなければ、顔色で分ると云う、それが又日常生活にもひびくことで大部分の者がわけもわからずその人に従つてゆくとか、全りにも単純な人の心がその様に利用されるとは、本當に歎かましいとしかいへぬ、無論純な心程美しいのだが、時によつては、皮肉な心も必要じやないかと思ふのは私ばかりであらうか
せめて私達若人だけは、何事にも屈せず己の理性で正しいと心したものをめざして真直に進むべきである。

二月十二日 泊中学校講堂

第二回連青卓球大会
来る二月十二日、午前九時より泊中学校講堂にて、第二回連青各校下団対抗卓球大会を開催。出場者は各校下団、男女各一チームで個人戦は、同選手内と定めて、出場出来る。

世相の裏道
「悪習賭博は断然やめよう」

金儲けにも表街道、裏街道といふがあるが「悪銭身につかず」と云ふことは古今東西変わらないであろう北陸特有の冬ごもりの季節に入り三人寄れば何とやらで、賭博の悪習は今日なおとをたふさないようだ。最近入善警察署で、賭銭拾得万全円也と云う大賭博を檢舉した一幕はこうだ。

かねて内偵中であつた博徒の動静が網の目のように張られた情報線から逐一手に入るように入。捜査員は全員捕縛の態勢で大雨をついて、点綴するワラニウを盾として夕暗せ

の賭事に凝り、夜更けまで続け、その結果持金をなくし、遂には全財産までも失ひ、妻や子供を路頭に迷わせたあげく、罪を犯す例が少くありません。この様に賭博は健全な勤労意欲を弱め善良な風俗を害し、社会的に見ても大きな害毒です。今冬こそは防犯組合や青年団、婦人会が中心となつて「悪習の賭博」「家庭を滅す賭博」「妻子を路頭に迷わす賭博」「人間をだ落さす賭博」を断然駆逐致しましょう。

(入善警察署)



農業基本調査について

本年二月一日現在で農業経営の実態を明らかにし、有効適切な農業政策の資料を得るために県内の全農家における農業経営の基本的事項について調査が行われます調査事項は

- 1 常住世帯員数及びその就業状況
- 2 過去一年間の出生、死亡、転入転出状況
- 3 兼業農家の兼業収入割合別農家数
- 4 経営耕地及び採草地面積
- 5 田の枚数及び田畑の団地数
- 6 土地改良を要する田の面積
- 7 水田の耕耘状況
- 8 冬作物の作付面積
- 9 家畜家きんの飼育頭羽数
- 10 サイロの所有状況

納税

- 11 家畜家きん飼料の使用及び購入数量
 - 12 農機具の保有状況
 - 13 購入肥料の消費量
- でありますがこの調査は、調査員が個々の農家を訪問し、面接、ききとり調査をすることになっておりますから農家の皆様には格別の御協力を願ひします。
- 納められたか
納税
……
納められたか
- 町民税 第四期
保険税 第四期
二月は 第四期
固定資産税 第四期

たばこは朝日町で買いましよう

それは？
たばこ一個買上げると次の税金が、町の収入となつて入るからです。
四五円のピース一個で三円九一銭
三〇円の光 二円六〇銭
四〇円のしんせい 三円四七銭
三〇円の パット 二円六〇銭
これが更に四月一日から
ピース 一個で 四円五銭
光 二円七〇銭
しんせい 三円六〇銭
パット 二円七〇銭
と税金が余計入ることになります
朝日町たばこ消費税
現在では約月三〇万円
入っております。

朝日町の人口動態

(昭和三十年十二月)

◎出生の部

折谷 博子	米田 悠子
野沢 理也	大平 幸枝
柳沢 智子	大窪 祥司
中島 悦子	横川 稚夫
木村 和夫	岡 義夫
藤井 謙吉	中沖 浩子
松下 重樹	
五ヶ庄 朗	長井 進
浜川 朗	
稲荷みほ子	清水 純一
大家庄	勝田 多美
森田恵美子	水島 敏彦
宮崎	
長井 雪路	
折谷 敏子	
境 幸嗣	
大平 司志	
野中	
橋場 郁之	稲村 隆
南保	
宇田 和弘	山本 容子
土井 律子	江淵由美子
山崎	仙名美穂子
善万 修	蓬沢 茂美
七沢 邦江	鹿熊美知子
安達 勝博	
泊	
水野 のぶ	佐々木そよ
中尾 すみ	水島メドリ
岩田清次郎	
五ヶ庄	
水野 正一	数家 清作
大家庄	大井 二郎
藤田よしえ	
宮崎	扇谷 ちい
竹内 幸雄	

◎死亡の部

折谷 博子	米田 悠子
野沢 理也	大平 幸枝
柳沢 智子	大窪 祥司
中島 悦子	横川 稚夫
木村 和夫	岡 義夫
藤井 謙吉	中沖 浩子
松下 重樹	
五ヶ庄 朗	長井 進
浜川 朗	
稲荷みほ子	清水 純一
大家庄	勝田 多美
森田恵美子	水島 敏彦
宮崎	
長井 雪路	
折谷 敏子	
境 幸嗣	
大平 司志	
野中	
橋場 郁之	稲村 隆
南保	
宇田 和弘	山本 容子
土井 律子	江淵由美子
山崎	仙名美穂子
善万 修	蓬沢 茂美
七沢 邦江	鹿熊美知子
安達 勝博	
泊	
水野 のぶ	佐々木そよ
中尾 すみ	水島メドリ
岩田清次郎	
五ヶ庄	
水野 正一	数家 清作
大家庄	大井 二郎
藤田よしえ	
宮崎	扇谷 ちい
竹内 幸雄	

歳末たすけあい運動について

昨年末町民各位に呼びかけ気の毒な人等へ、温い真心を贈る歳末たすけあい運動を展開しましたところ各位多数の御賛同を得て所期の目的を達することが出来ました。その成績を左の通り御報告申し上げますと共に御協力下さいました方々の御厚志に対し深く感謝の意を表します。

◎歳出金品

金 七四、五一二円
白 米 一石四五二合
大小豆 二四六合
日用品 三八八合
衣類 七点
歳出世帯数 四、二九六戸
配分世帯数 二二三戸
朝日町民生委員連合会
朝日町民生課

あとがき

十一年ぶりの大雪は、近年の暖冬異変になれた北陸人の意表をついて襲来した。用意なき時は、人は特にあわてふためくものなり。今年成人に達することは、昨年から、否一昨年、その前からわかつていた筈、心の準備は十分出来ていた訳、成人諸君を祝つて第五号を御手許へ。